



# れんけいと支援



富山市今泉北部町 2-1 / Tel: 076 (422) 1112 (代) <http://www.tch.toyama.toyama.jp> / 発行日 2013年11月

地域の医療・保健・介護・福祉の方とともに、皆様の健康をお守りします

## 無症状胆石症について



消化器外科部長 月岡 雄治

無症状胆石症をどうしますか。日本人の約10%が胆石を有しているといわれています。その大半の人が自覚症状のない、無症状胆石症です。腹痛や背部痛等の症状のある人は早めの治療が必要ですが、無症状の人はどうでしょうか。

胆石症の約15-20%を占める総胆管結石症は無症状であっても肝臓に負担がかかっていますし、総胆管結石が嵌頓（出口にはまった）した場合には強い痛みとともに閉塞性黄疸を発症します。また、そこに感染が併発すると、急性閉塞性化膿性胆管炎となり、短時間のうちに敗血症やDIC（播種性血管内血液凝固症候群）にまで進行し生命に危険が及びます。従って、総胆管結石を有する患者さんに対しては強く治療を勧めます。一般的には総胆管結石の治療は内視鏡的治療が中心ですが、病状によっては手術が必要となる場合もあります。

胆石症の80%以上を占める胆嚢結石症はどうでしょうか。一般的には無症状の胆嚢結石症は経過観察でよいとされています。しかし無症状と診断されて経過観察された場合、年2-4%の率で有症状化する可能性があり、有症状化危険因子として、複数胆石、胆嚢造影陰性、若年者などがあげられます（胆石症診療ガイドラインより）。胆嚢結石症の標準的な治療法は腹腔鏡下胆嚢摘出術とよばれる手術で、この手術は3-4カ所の5mm-10mmの創で行うことができ、術後平均して3-4日で退院されます。有症状の患者さんでは無症状の患者さんより開腹手術に移行（腹腔鏡手術で完結できない）する率が高くなり、また合併症の発生率も高くなるとされていますので、複数胆石（特に小さい石が多数）、胆嚢造影陰性、若年者の患者さんは手術を考慮された方がよいでしょう（絶対ではありませんが個人的には強くお勧めします）。また、胆嚢の壁が厚く腫瘍性病変が否定できない場合や、石が多いために胆嚢の画像検査が難しい場合なども手術をされた方がよいとされています。有症状化危険因子がなくても、急性胆嚢炎や急性胆管炎の発症の可能性があります。発症後早期に対応すれば腹腔鏡手術が可能ですし、病状が重症化する可能性も低くなりますので、胆石保有者に対しては、典型的な臨床症状や対処法などを普段から知っていただくことが大切です。当院胆石外来では治療や手術を希望されていなくても、上記の説明をさせていただいておりますので、お気軽に紹介いただければと思います。

## Contents

無症状胆石症について.....	1
11月の地域連携・開放型病床症例検討会報告	2
研修・講演・勉強会のご案内.....	3
外来部門の紹介.....	4
医師不在のお知らせ.....	4
編集後記.....	4

## 1. 地域連携・開放型病床症例検討会

日時：12月10日（火）19：00～20：15 場所：当院3階 講堂

### 1) ミニレクチャー：「前立腺癌と治療 一特に内分泌治療について」

泌尿器科 高瀬 育和

高齢化社会の進行や食事の西洋化により、本邦における前立腺癌の罹患率は今後も増加すると考えられる。前立腺癌の確定診断は前立腺針生検によって行われ、CT、骨シンチ等の画像検査によりステージ診断が行われる。治療は主に手術、放射線治療、およびホルモン療法が行われる。進行癌や多くの高齢の患者さんにはホルモン治療が選択される。ホルモン療法は、内服薬である抗アンドロゲン剤（ビカルタミド、フルタミド等）、および注射薬である GnRH（性腺刺激ホルモン放出ホルモン）アゴニ

スト（リュープロレリン酢酸塩、ゴセレリン酢酸塩）の単独もしくは併用によって行われて来たが、最近の治療として GnRH アゴニストであるデガレリクス酢酸塩が出現した。この薬剤は PSA が高い症例などにおいては、GnRH アゴニストに比べて再燃までの期間が延長する効果がある。今後も高齢の前立腺癌患者が増える状況を踏まえると、ホルモン療法を受ける患者さんの増加が予想される。

### 2) 症例検討（2例）

#### ①『骨髄検査にて診断されたびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫』

（紹介医）北新町診療所 大江 国広先生 血液内科 寺崎 靖

#### ②『胸痛を主訴に発見された小児逆流性食道炎の1例』

（紹介医）泉小児科医院 泉 紀子先生 小児科 金田 尚

### 《お知らせ》

※平成26年1月の地域連携・開放型病床症例検討会は都合により中止いたします。

また、2月の開催日は第2火曜日が祝日のため2月4日（火）に予定しています。ご参加をお待ちしております。

### 予告

日時：平成26年2月4日（火）19：00～20：15 場所：当院3階 講堂

#### ① ミニレクチャー：心筋梗塞と似た病態～たこつぼ心筋症の臨床～

循環器内科 清川 裕明

#### ② 症例検討 消化器内科・精神科の2例を予定しています。

## 2. 内科 CPC

日時：12月10日（火）17：30～

場所：医局カンファレンス室

## 3. 医療機器研修会

日時：12月3日（火）17：45～18：15

場所：集団指導室

○テーマ「（人工呼吸器）加温加湿器の重要性について」

○講師 臨床工学技士 松下 翔悟

## 4. 糖尿病研究会定例学習会

日時：12月5日（木）17：45～18：45

場所：集団指導室

○テーマ「フットケア症例検討会」

○講師 糖尿病療養指導士

## 5. 感染予防対策学習会

日時：12月9日（月）① 12：15～12：50

② 17：30～18：05

①②とも同じ内容です。

場所：講堂

○テーマ「感染症発生時の対応  
～インフルエンザを例に考えてみよう～」

○講師 感染管理認定看護師 安田 恵

## 6. 地域医療部 担当者交流会・講演会

日時：12月12日（木）

担当者交流会 16：00～17：00

講演会 17：30～19：00

場所：集団指導室、講堂

○テーマ「『ポジティブ思考』で始める在宅ケア  
～サービス提供者も幸せになれる  
連携ケアを目指す～」

○講師 大坪医院 看護師 大坪よし子先生

## 7. NST 学習会

日時：12月16日（月）18：00～19：00

場所：講堂

○テーマ「静脈栄養法と合併症」

○講師 外科医師 月岡 雄治

## 8. 乳腺術後症例検討会

日時：12月17日（火）16：00～

場所：病理検査室

対象：医師、臨床検査技師、放射線技師、他

\*日時が変更になる場合がありますので、  
参加希望の方は事前にご連絡ください。

## 9. 看護研修

### 《第5回看護研究研修会》

日時：12月26日（木）

13：10～

受付開始

13：30～17：00

講義と演習

場所：講堂

○テーマ「看護研究一効果的な

プレゼンテーションの仕方」

### 《衛星研修S-QUE Eナース》

日時：12月4日（水）17：40～18：40

場所：3階 集団指導室

○テーマ「安全な投与法～外来がん化学療法について」

日時：12月18日（水）17：40～18：40

場所：3階 集団指導室

○テーマ「がん性疼痛のアセスメント

～痛みメカニズムから緩和まで」

## 外来部門

## の紹介



### 今月は 泌尿器科

泌尿器科外来は、医師3名、看護師4名、医療助手1名の2診体制で診療しています。主に尿路（腎、尿管、膀胱、尿道）、副腎、及び男性生殖器（前立腺、精巣など）に発生する病気を取扱い、腹腔鏡を用いた手術も行っています。女性特有の病気である骨盤臓器脱の手術件数も多く、メッシュ法による手術では良好な成績が得られています。

腎結石や尿管結石には、外来で体外衝撃波結石破砕術（ESWL）を行うことが出来る為、地域の先生方からのご紹介を多く頂いています。

最近当科看護師2名が自己導尿指導士の資格を取りま

した。間歇導尿（CIC）を新たに始める方への指導や、CICに関わる家族の方への相談に応じることで継続的な関わりを持ってよう心掛けています。

今後もスタッフ一丸となり、患者様の満足度が高い医療・看護を目指し、日々努力していきたく思います。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



## 医師不在のお知らせ ※外来担当日の休診のみ掲載

12月分

科名	不在日	医師名	科名	不在日	医師名
内科	13日	清水	整形外科・関節再建外科	10日、13日	澤口
	24日	清川			
精神科	12日、13日	柴田	眼科	6日、11日、12日、13日	山田
外科・消化器外科・乳腺外科	9日、16日	泉	麻酔科	18日	松浦
			形成外科	9日	置塩

※ その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。

### 新任スタッフの紹介



9月から、ふれあい地域医療センターに勤めております木村 祐美子です。

実務経験が浅く不慣れなため、みなさまには多々ご迷惑をおかけするかと思いますが、一日も早く業務に慣れ、退院調整や社会福祉相談業務に携わる一員として、自分の役割を果たすことができるよう努力いたしますので、よろしくお願いいたします。

社会福祉士 木村 祐美子

### 編集後記

日に日に寒さが厳しさを増して、体調管理が難しくなってきました。

厳しい寒さは風邪などの体調不良だけでなく、心筋梗塞も引き起こしやすくなります。検査科では、心電図、心エコー、心臓カテーテル検査など、心筋梗塞に関連した検査にも大きく携わっています。その中で、心筋梗塞を引き起こさないように予防することが大切だと、日々感じています。

寒い日には急に体を冷やさないよう防寒対策をとる、入浴時は長湯は避けてぬるめのお湯にする、日々の禁煙を心掛ける、過度の飲酒を控える、など注意し、心筋梗塞の予防を心がけて、今年の冬も元気に過ごしましょう！



「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 FAX 076 (422) 1154

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> がん・なんでも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp